

# しいのき



▲歌川豊国 其由縁十二時斗 卯ノ刻

## 絵入り小説の浮世絵

名誉館長 三隅治雄

中野区が所蔵する絵画には、江戸時代、それぞれの画風的美を競った、狩野派・容斎派・円山派・住吉派・琳派・文晁系などの作品が多々あります。これを系統的に構成すれば、ミニ近世絵画展のおもむきにもなるかということ、今回の「絵」特別企画展が成ったわけですが、そのなかでとくに江戸の民衆の人気をかちえた絵画として注目されるのは浮世絵です。浮世、つまり現世の風俗をえがく点で庶民生活と密着する上、民衆のあこがれる官能・遊興の世界を好んでえがき、それが版画として商品化されることで広く普及しました。また、江戸中期以来、毎ページに挿絵を入れ、それに文章を添える形でドラマを展開させる、草双紙とよばれる絵入り小説がもてはやされ、その挿絵が浮世絵師のものであったので、さらに浮世絵は庶民に身近な芸術になりました。掲載写真もその挿絵をモチーフとしたもので、安政6年(1859)の版。作者の歌川豊国は三代目で、前名国貞での活躍が知られています。区内上高田の萬昌院功運寺には、初代歌川豊国の墓があります。

# 文化財よもやま話

# 大地に眠る歴史

## 茶篩

今回は区民の方から御寄贈いただいた製茶道具の一つである「茶篩」を紹介します。



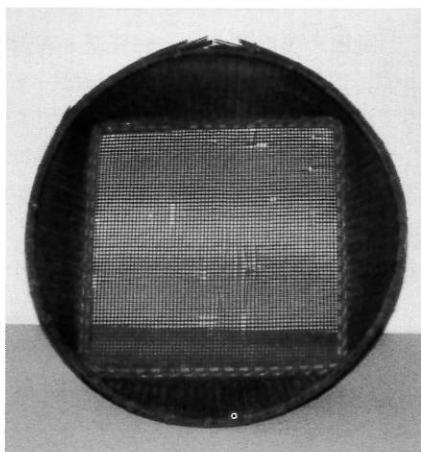
▲「篩」法政大学出版局より

中野での茶の栽培は、明治初期から行われています。とくに旧江古田村では、明治7年(1874)に土地を開墾したり、各家の畑や空き地を利用して茶の栽培を始めました。村内では15軒の農家が茶園を開いていたとい

ます。茶篩は、茶の種類により巧みに使い分けられますが、製茶の行程で茶の目を揃えたり、茶の葉を揉むという実に微妙な作業に使用されます。

縁は藤で、網目は竹で出来ており、その網目は驚くほど正確に0.5cmの升目を作っています。又この様な竹の製品は、保存の方法によっては100年を越えて使用できる物で、製品の完成度の高さと共に竹という素材を見直さざるを得ません。そして、茶は味や香りを大切にする為に金物では適当ではなく、現在でも活躍しているのです。

茶の栽培は、大正～昭和にかけて宅地化が進むにつれ姿を消しました。茶篩は製茶業を知る一つの手がかりです。



## 台所物語6(カマドもう一つの役割)

5～7世紀は、日本各地で豪族が力を持ちはじめた時期で、特に近畿地方の大王の強大な勢力は日本全国にその力をおよぼしていました。各地の豪族は、近畿の大王のもとに出仕していたことが埼玉県稲荷山古墳の鉄剣に書かれていた銘文によって明らかにされています。

ところで、これらの人々が遠く近畿地方まで行くためには、食糧が必要になります。彼らは乾飯(ほしいい)という乾燥させた御飯を携帯していたと考えられています。

乾飯とはお湯をかけて待つとお粥になり、今で言うカップラーメンのようなものでした。これをつくるにはカマドが適しており、米を蒸すのをそのまま続ければ自然と固くなります、これを干せば乾飯になるわけです。

このようにカマドは普段の御飯を炊く以外にも役割がありました。それは、当時の社会と人々の日々の暮らしの両方にとって重要なものであったのです。



▲「衣食住に見る日本の歴史3」あすなろ書房より

この役割は、奈良時代まで続きます。この頃はわが国が本格的な法(律令)で治められた時代です。令(りょう)という法によって細かく税や義務が定められ、人々は租(米を納める)・雑徭(労働力の提供)・調(特産物の徴収)といった税や、男子は防人(さきもり)として遠く九州へ兵隊となって行かされたりしました。

それは、過酷なものでしたが、税の近畿地方への輸送や九州への旅路には乾飯は不可欠なものだったのでした。(つづく)

# 古文書つづり

## 古文書が残ったわけ

右に掲げた史料は、延宝二年（1674）に行われた水帳の写しです。この水帳は、普通検地帳と同じ意味で、土地台帳のようなものといえるでしょう。この時期に行われた検地は、元禄検地と同じく、その後の江戸時代を通して基礎となった検地です。それ以前の検地を「古検」と指すのに区別して、この時期からの検地を「新検」と呼ぶのはこうした理由からです。

ところで、江戸時代には何故このように多くの古文書が残されたり、写されたりするのでしょうか。単なる偶然と考えてよいのでしょうか。この点について考えてみましょう。

江戸時代は、兵農分離制がとられていました。つまり領主である侍は城下町に住み、原則として農村に住まなかったのです。領主が農民に対して、指示・命令など意志伝達する場合は、文書を通して行いました。逆に農民側が領主に対して年貢の

納入が行われた時や様々な願い事などをする場合も、すべて文書を通して行われたのです。文書で書き記したことが証拠となり、また領主への願い事・訴え事の根拠となるわけです。

文書を書き記し、残していく作業は、当時の人々にとって生活に密接に関係したことだったのです。だからこそ、古文書の多くは、丈夫な土蔵の中に保管され、保存されているのです。

それが一見どこにでもあると思える内容であろうとも、薄汚れたものであろうとも、多くのことを私達に語りかけようとしています。今見ることのできる古文書は、当時書かれた文書のほんのわずかでしかありません。

幾多の風雪を耐え忍び、多くの人々が受け継いで残された古文書に、歴史の重みを感じると共に、次の世代へ受け継いでいかなければならないことを痛感せずにいられません。



◀延宝二年中野村水帳写

## 中野往来

### 我等の中野

- (1) 草より出でし武蔵野の  
月の光りは変らねど  
雲の波の輝きて  
千代田の森の西の方  
栄え行く町我が中野  
(共に讃えよ我等が中野)
- (2) 戸数は二万一千戸  
人口凡そ八万余  
中野、本郷、雑色の  
三字合せし面積は  
一百五十五万坪  
(共に育てよ我等が中野) 以下略

この歌は中野町教育会が昭和6年に募集した懸賞唱歌「我等の中野」の一等に入選したもので、作者は「出船」を作った町会議員の勝田穂策氏です。当時の中野町に該当する地域は現在戸数7万、人口14万で、40年間の中野の発展がわかります。(中野区史資料から)

## 中野昔話

### 新井薬師

おばあちゃんから聞いたのですが、昔、お薬師様に泥棒に入って、取ろうと思ったら、動けないんですってね。小さなご本尊だけど、やっぱり、霊験あらたか。

それで、昔は、ずいぶん、あすこの前にお料理屋さんが、今は駐車場になってますけど、あすこに三軒ちょうどね、お茶屋さんがありまして、それで、そこへ講社の人がお籠りして。それで、本当に目が見えなくていたのが、ね、なんでも、そのね、自分で不自由なくできるようになったっていうお話を、おばあちゃんから聞きましたよ。昔は講社がいっぱいありましてね。

(新井 女 明治40年生)

『中野の昔話・伝説・世間話』より

# 事業報告

## 各種事業経過

1993年7月～9月

事業名	内容	期間
企画展	「寺子屋から学校へ」	7/10～9/5
文化財調査	区内寺院文化財調査	7/28～
古文書講座	「入門コース」講師 白井哲哉氏(埼玉県教育局生涯学習部) 大友一雄氏(国文学研究資料館・国立史料館)	9/25～
その他	学芸員実習：6大学(7名) 郷土学習相談室：区内小中学校教諭・館員 全館消毒・清掃：臨時休館	7/28～8/8 8/24～27 9/6～10
協力展	「太平洋戦争と中野区民のくらし展」：平和の森公園内・資料室	7/3～10/28

## 寄贈資料一覧

1993年3月4日～4月2日  
敬称略・受入順

資料名	点数	氏名
ものさし・懐中時計・そろばん他	7	太田巳代子
文鎮・炭	2	木下 洋子
学用品	一式	渡辺家
ひな人形飾	一式	白鷺保育園
こいのぼり・尋常小学校修身書他	3	天野 哲三
弁当箱・そろばん・カラーテレビ	3	笹川 克巳
そろばん	1	佐藤 博
ふでばこ	1	本村 啓行
ものさし・文鎮・筆入	6	大塚栄之助
すずり箱・そろばん	2	立岩 宗松
べんとう箱・そろばん・ふで箱他	5	小林 初枝
ふでまき・そろばん・鉛筆他	5	金沢 大作
たて笛	1	大島 貴子
弁当箱	2	向山 光慶
文鎮・ハーモニカ・習字道具	3	北村 イチ
木琴・弁当箱・パレット他	4	小作 将雄
番頭そろばん	1	岡田 誠吾
三角組	1	吉次 義英
すずり箱	一式	高松 禎
なわとび・下敷き・たて笛他	5	菊池 治子
弁当箱・はんごう	3	村山 英治
地球儀・弁当箱・そろばん	3	泉水 英二
そろばん・図書教科書・袋パック2他	11	村瀬由紀子
携帯用そろばん・竹ものさし他	4	山崎 清司
火箸	1	平野 進
火のし他	一式	渡辺家

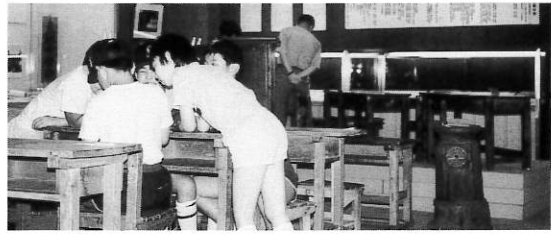
◎貴重な資料をありがとうございました。厚くお礼申し上げます。

++++ NEWS +++++

★次の企画展は、「“絵”系統で見る区所蔵の絵画」です。10月1日から11月14日まで、2階企画展示室において、中野区所蔵の絵画を展示します。また、華麗な図柄の絵葉書も同時に販売します。限定販売ですのでお早めに。

★『中野を読むII』出ました。『中野を読むI』の続刊です。好評発売中。

++++ NEWS +++++



## 入館状況

1993年6月～8月(92日間) (人)

一般	社教団体	学校教育	合計
9,764	269	116	10,149

発行年月日 1993年10月1日

編集・発行  **山崎記念 中野区立歴史民俗資料館**

〒165 東京都中野区江古田4-3-4  
☎ 03(3319)9221 FAX 03(3319)9119  
(印刷物登録番号 5中教社第10号)